

発表プログラム

ラウンドテーブル A (8号館 1階 812 教室)

11月22日(金) 17:00~19:00

学習における認知バイアス、生態学における役割

持田浩治 (慶應・生物)

動物は、外的環境の変化に対応するために、新奇行動を学習して獲得する。エソロジーの黎明期には、すでに、動物にとって学習しやすい・しにくい行動が存在すること、つまり、学習は経験によって形成される行動の変容機構ではあるが、そこには生得的な制約が存在することが知られていた。近年、人を対象とした心理学や行動学研究の進展により、こうした学習の制約や準備性を、脳・神経メカニズムから理解する試みがなされ、これを認知バイアス (cognitive bias) とよぶようになった。本ラウンドテーブルでは、様々な動物を対象とした個体学習や社会学習における認知バイアス研究に関する話題を提供し、これまで漠然と生得性 (innate) というブラックボックスのなかに入れてきた学習のメカニズムについての理解を深め、動物の行動進化や生態学的現象における認知バイアスの役割について議論したい。

RA-1 「生態に適応的な魚類の学習能力」

高橋宏司 (慶應・生物)

RA-2 「鳥類捕食者の認知バイアスが警告色の進化に与える影響」

本間淳 (琉大・農)

RA-3 「霊長類における観察恐怖学習とその神経基盤」

岩沖晴彦 (京大・霊研)

RA-4 「ショウジョウバエの求愛歌選好性における経験依存的な変化とその神経基盤」

石川由希 (名大・理)

RA-5 「集団行動伝播と行動形成に及ぼす認知バイアスの役割」

香田啓貴 (京大・霊研)

系統種間比較で進化を紐解く

長谷川克 (石川県立大・環境)・工藤慎一 (鳴門教育大)

統計手法の発達とともに、動物の行動そのものの進化、あるいは行動生態学的な疑問を解き明かす便利なツールとして、系統種間比較 (phylogenetic comparative methods) が一般の研究者にも広く利用可能な時代になりました。現在進行形で急速に発展している研究手法であるため、導入を迷っている人も、導入を検討しつつもどこから手をつけたらよいか途方に暮れている人も多いのではないのでしょうか。本ラウンドテーブルでは、系統種間比較の基本的な考え方と様々な手法の解説に加え、すでに系統種間比較を活用している研究者の発表を通じて、系統種間比較とは何か、形質進化を理解する上での利点や他の研究手法との関係、面白さや将来性について掴んでもらうことを目的としています。異なる4つの分類群(哺乳類、鳥類、魚類、無脊椎動物)についての事例研究を取り上げることで分類群ごとの特色なども織り交ぜ、新しく手法を取り入れる人にも、更なる発展を目指す人にも楽しめる集会を目指します。

RB-1「適応研究から進化研究へ (趣旨説明)」

長谷川克 (石川県立大・環境)

RB-2「形質の進化過程をいかに推定するか：種間比較の基礎とネコ科の牙の進化」

原野智広 (愛知学院大)

RB-3「ツバメ類とアマツバメ類における燕尾の機能と進化」

長谷川克 (石川県立大・環境)・新井絵美 (総研大・先導研)

RB-4「進化生態学における古典的定説を覆す：ツノカメムシ類における生活史形質の相関進化」

工藤慎一 (鳴門教育大)・原野智広 (愛知学院大)・沓掛展之 (総研大・先導研)・吉澤和徳 (北大・農・昆虫体系)

RB-5「精子はなぜこれほどまでに多様なのか？交尾行動や精子競争が駆動する魚類精子の進化」

安房田智司・伊藤岳 (大阪市大・院理)

RB-6 総合討論

ラウンドテーブルC (8号館 1階 812教室)

11月24日(日) 13:00~15:00

「認知」に関するアプローチ：動物心理学から学ぶ

堀田崇 (京大・文・心理)

従来、動物行動学や行動生態学の分野では、その行動の究極要因に関する視点から研究がおこなわれてきた。しかし近年では、どのように情報を知覚・処理し、意思決定をしているのかという観点についても研究がおこなわれている。このような、ある行動の基盤となる「認知機能」に関する研究はこれまで動物心理学や比較認知科学において焦点があてられていたものである。しかし動物行動学会と動物心理学会の間での交流は少なく、そのためこれらの学術分野間での交流は双方の研究をより進展させるだろうと期待される。そこで本ラウンドテーブルでは、動物心理学会に所属している気鋭の若手研究者に「ここに少し研究紹介」話題提供していただく。それらの動物心理学分野における「認知機能」に関するアプローチを通して、今後なされるべき研究の方向性について理解を深めたい。

RC-1 「霊長類の乳児らしさとその認知の進化」

川口ゆり (京大・理・霊長類)

RC-2 「ネコは飼い主の声を聴いて顔を思い浮かべる？ーネコの視聴覚統合ー」

高木佐保 (麻布大・獣医・介在動物)

RC-3 「イルカは鏡をどう認識しているか」

陳香純 (京大・文・心理)

行動生態学のアウトリーチにおける"炎上"を考える

小林和也(京大・フィールド研)・土畑重人(京大・農・昆虫生態)

動物行動学では、その名の通り動物が示す様々な行動を扱っているため、人間の行為と捉えうる表現(配偶者選択・協利行動など)を多用し、中には人間社会では犯罪に区分される行動を示す表現(子殺しなど)も存在する。研究者の間では「生物の適応に関する科学的議論と善悪のような価値判断は異なる」という前提が共有されているが、近年、大学・研究者・学術誌に求められる一般社会へのアウトリーチ活動はそのような前提知識を持たない人々との接点を増やしており、特にSNSにおいて一般常識から学術用語を判断し誤解が生じた結果、多数の非難・批判が殺到する"炎上"と呼ばれる状況が生じている。しかし、"炎上"を恐れて動物行動学とヒトの生物学を遠ざけると、ヒトと動物の共通性や差異の理解を妨げ、動物行動学がもたらす科学的知識の一般への普及も妨げることになるかもしれない。本ラウンドテーブルでは、昨年起きた炎上案件を報告し、科学コミュニケーションと科学哲学の視点をご紹介いただき、より良いアウトリーチについて議論したい。

RD-1「趣旨説明」

土畑重人(京大・農・昆虫生態)

RD-2「事例報告:「セクハラが多様性維持」炎上について」

小林和也(京大・フィールド研)

RD-3「理解と誤解のはざま——科学コミュニケーションの実務から」

清水智樹(京大・国際広報室)

RD-4「科学的な内容の議論における「文脈の分業」の必要性」総合討論

伊勢田哲治(京大・文・科学哲学)

映像紹介・口頭発表 A (8号館 1階 810 教室)

11月23日(土) 9:00~11:30

映像紹介

- 9:00 V-1 コスタリカに生息するオトシブミ科甲虫 *O. corvinus* がゆりかご形成の過程で葉の先端部分を切り捨てるのはなぜ？
櫻井一彦 (成城大学・社会イノベーション学部)
- 9:15 V-2 深層学習を用いた昆虫行動の自動アノテーション
○香月雅子 (東大院・農・学振 RPD)・松尾隆嗣 (東大院・農)
- 9:30 V-3 野生ミナミハンドウイルカの採餌行動の水中観察
○高橋力也 (近大院・農)・森阪匡通 (三重大院・生資・鯨研セ)・小木万布 (御蔵島観光協会)・酒井麻衣 (近大・農)

口頭発表

- 9:45 OA-1 飼育下におけるトドの音声弁別能力
○佐々木雅大・千葉美結・伊藤瑛梨・堤和樹・増田芽以・守山義幸・伊藤公一 (城崎マリンワールド)
- 10:00 OA-2 警告だけじゃない！共生ハゼがエビに送る尾振りシグナルの新たな機能
○山田泰智・幸田正典・太田和孝・安房田智司 (大阪市大・院・理)
- 10:15 休憩
- 10:30 OA-3 掃除魚に擬態するニセクロスジギンポの体色変異個体～その適応度は？
○桑村哲生 (中京大・国際教養)・佐藤初 (広島大・生物生産)・坂井陽一 (広島大院・統合生命)・藤澤美咲 (広島水海技セ)
- 10:45 OA-4 一時的社会寄生種であるトゲアリが行う馬乗り行動の意義の解明
○岩井碩慶・河野暢明・堀川大樹 (慶大院・政策・メディア・先端生命)・富田勝・荒川和晴 (慶大・環境情報)
- 11:00 OA-5 チョウに同性という認識は存在するか？
○竹内剛 (大阪府大)・村松大輔 (奈良教育大)
- 11:15 OA-6 『盗』盗刺胞～ミノウミウシによる防御用刺胞獲得の斬新な方法
東祐佳・山田優佳 (日大・生物資源)・小蕎圭太 (横浜市)・○中嶋康裕 (日大・経済)

口頭発表 B (8号館 1階 810 教室)

11月24日(日) 9:00~11:30

-
- 9:00 OB-1 ネコにフレーメン反応を誘起する化合物の同定と嗅覚シグナルとしての機能
○宮崎雅雄(岩手大・農)・Jana Caspers(ブラウンシュヴァイク工科大)・
宮崎珠子・上野山怜子・佐藤龍之介・山下哲郎(岩手大・農)・Stefan Schulz
(ブラウンシュヴァイク工科大)
- 9:15 OB-2 ネコにマタタビ反応を誘起する新たな生理活性物質の同定
○上野山怜子・室岡孝信(岩手大・農)・安立昌篤(名大院・生命農学)・片
山理恵子・宮崎珠子・山下哲郎(岩手大・農)・西川俊夫(名大院・生命農
学)・宮崎雅雄(岩手大・農)
- 9:30 OB-3 刷り込みの研究(1): 生物的運動への選好性は記憶形成と共役する
○松島俊也・三浦桃子・竹村友里(北大・理・生物)・山口真二・青木直哉・
本間光一(帝京大・薬)
- 9:45 OB-4 刷り込みの研究(2): 生物的運動は刷り込みの頑健な発達をもたらす
○三浦桃子・西大介・松島俊也(北大・理・生物)
- 10:00 OB-5 環境変化が群れ形成に与える影響
○フェリシャーニクラウディオ・村上久(東大)・西山雄大(長岡技大・情
経)
- 10:15 休憩
- 10:30 OB-6 光源移動によるミナミコメツキガニ集団行動の変化
植林尚之・楠見賢司・長谷川航・野村収作・○西山雄大(長岡技大・情経)
- 10:45 OB-7 体外受精種でも精子除去は起こりうる—除去効果と除去リスク補償—
中西絢子・金谷洋佑・川瀬翔馬(長崎大・院水環)・吉田真明(島根大・生物
資源)・佐藤成祥(東海大・海洋)・○竹垣毅(長崎大・院水環)
- 11:00 OB-8 深海性魚類コンニャクウオ属2種の繁殖行動
○森俊彰(ふくしま海洋科学館)・大塚晶子(北里大・海洋)・山内信弥・松
崎浩二(ふくしま海洋科学館)・吉永龍起(北里大・海洋)
- 11:15 OB-9 ホンソメワケベラの鏡像自己認知の再検証: 追試実験と追加実験から
○幸田正典・十川俊平・久保直樹・藤田陽光・安房田智司(大阪市大・院
理)

ポスター発表（8号館 3階 SP1教室、SP2教室、SP3教室）

11月22日（金）13:00～11月24日（日）12:00

コアタイム 奇数番号：22日（金）14:00～15:00

23日（土）13:00～14:00

偶数番号：22日（金）15:30～16:30

23日（土）14:15～15:15

-
- P-001 チチブ類の浮力遊泳行動に影響する心理的要因
岸田宗範（宮内庁・上皇職・生研）
- P-002 クマノミ類の攻撃行動の種差が他種魚類の宿主選択に影響を与えるか？
○林希奈（琉球大・院・理工）・James Davis Reimer・立原一憲（琉球大・理）
- P-003 タンガニイカ産カワスズメ科魚類ペリソウダスの粘膜給餌行動
○佐藤駿・安房田智司・角田宇海（大阪市大・院・理）・堀道夫（京大・院・理）・幸田正典（大阪市大・院・理）
- P-004 魚類の逃避応答観察を通じた個体の警戒特性の伝播-メダカの情動伝染？
高橋宏司（慶應・生物）
- P-005 砂防堰堤がアマゴに与える影響～体サイズ別の昼夜の摂餌内容～
○澤根さくら・土屋峻平（東海大・海洋）・長谷川三男（芝川漁協）・石川定男（阿多古川漁協）・赤川泉（東海大・海洋）
- P-006 グッピーの雌の配偶者選好性に対する遺伝的影響の検証
峯村森悟・○狩野賢司（東京学芸大・自然科学）
- P-007 口永良部島におけるクマノミの社会構造—サイズ調和ペアの成立因に注目して
○立石新・坂井陽一（広島大・院・生物圏）
- P-008 カモハラギンポの雄は大きな雌が好きで、雌は鱭の長い雄が好き？
○冨田真柚・野田大貴（東海大・海洋・海洋生物）・鈴木宏易（東海大・海洋博物館）・中野正夫（シーホース）・赤川泉（東海大・海洋・海洋生物）
- P-009 広大な生活空間を維持するクロハコフグの実態—採餌場・産卵場・睡眠場の使い分
○小出佑紀・坂井陽一（広島大・生物圏）

- P-010 メダカの行動の種群内系統差を定量する：野生集団の雌も見知った雄を好むか
○尾崎雄一郎・岩崎渉（東大院・理・生物科学）
- P-011 黄ウナギの活動時間はどう変わるのか？ 一体サイズ・水温・明暗・競争の影響
○坂本祐里子・赤川泉（東海大・海洋）
- P-012 どんなウナギが石倉カゴに棲みつくのか、規模の違う二つの河川で比べた
星達也・鈴木悠太（東海大・海洋）・伏見直基（フタバコーケン）・○赤川泉（東海大・海洋）
- P-013 砂中で夏眠・休息するイカナゴに対する底質泥分増加の影響
○柴田淳也（広島大・環境安全セ）・桐本竜至・坂井陽一（広島大院・統合生命）
- P-014 ニホンウナギはなじんだ底質を選択するのか？
○西森壮汰・五十嵐賢也・赤川泉（東海大・海洋）
- P-015 性比と他殖／自殖性の共進化：マングローブ・キリフィッシュを例に
○山口幸（奈良女大・共生科学）・巖佐庸（関西学院大・理工）
- P-016 2つの視覚刺激に対する逃避行動：逃避行動中に魚類の行動は変化するのか？
○木村響（長崎大院・水環）・Tilo Pfalzgraff（Technical University of Denmark）・Marie Levet（Université de Montréal）・河端雄毅（長崎大院・水環）・John Fleng Steffensen（University of Copenhagen）・Jacob Johansen（University of Hawaii）・Paolo Domenici（CNR-IAMC）
- P-017 群泳するボラ稚魚の逃避行動～群れが同調して逃避するのは普遍的か？～
○見山航希・河端雄毅（長崎大・水産・行動機能形態学）
- P-018 魚類に接近しやすい方向を考える：接近方向が逃避開始距離に及ぼす影響
○山中遼（長崎大・院・水環）・米山和良（北海道大・院・水産）・河端雄毅（長崎大・院・水環）
- P-019 どうして魚は顔を注視するのか？顔注視行動を引き起こす要素の探求
○川坂健人・幸田正典（大阪市大・院・理）
- P-020 賢く闘う闘魚ベタ
○松浦良史（大阪市大・院・理）・堀田崇（京大・文・心理）・幸田正典（大阪市大・院・理）

- P-021 ホンソメワケベラは報酬が得られない刺激を避ける
○堀田崇・黒島妃香（京大・文・心理）・安房田智司・幸田正典（大阪市大・院・理）
- P-022 魚は自分の顔がわかるのか？
○十川俊平・幸田正典・重定美月（大阪市大・院・理）
- P-023 オヨギベニハゼはなぜ一夫一妻なのか？
○須之部友基・尾山匠（海洋大・館山）
- P-024 異なる配偶システムを生み出す脳内バソトシン・イソトシン系の比較研究
○福田和也（名古屋大・院生命農）・椋田崇生（鳥取大・医）・川口将史（富山大・院
医薬）・阿部秀樹・山本直之（名古屋大・院生命農）
- P-025 千葉県館山湾におけるカミナリベラ TP 雄の繁殖生態
○古川洋之介・佐藤陽・尾山匠・坂井遥・須合綾子・須之部友基（海洋大・館山）
- P-026 ミジンベニハゼの繁殖行動と性転換
○尾山匠（海洋大・館山）・園山貴之・笠井未来（下関市立しものせき水族館）・須之
部友基（海洋大・館山）
- P-027 ランダム・ウォーキング・スニーカー
太田和孝（大阪市大・院・理）
- P-028 クツワハゼ *Istigobius campbelli* の繁殖戦術は誕生日の影響を受けるか？
○佐藤陽・須之部友基（海洋大・館山）
- P-029 イソギンポ科ナベカの稚魚吐き行動
○須合綾子・須之部友基（海洋大・館山）
- P-030 ハレム型共同繁殖のシクリッドの社会構造および血縁度と手伝い行動の関係
○武山智博（岡山理大・生物地球）・Dik Heg・Dario Josi・Danielle Bonfils（University
of Bern）・Dmitry Konovalov（James Cook University）・Joakim G. Frommen（University
of Bern）・幸田正典（大阪市大・院・理）・Michael Taborsky（University of Bern）
- P-031 館山湾におけるウツボ *Gymnothorax kidako* の繁殖生態
○坂井遥・大森尚也・須之部友基（海洋大・館山）

- P-032 アユの振る舞いが互いに及ぼす影響の情報理論的解析
○福島俊紀・新里高行（筑波大・シス情・知能機能）
- P-033 掃除魚に擬態するニセクロスジギンポの卵食と群れ行動
○佐藤初（広島大・生物生産）・坂井陽一（広島大院・統合生命）・桑村哲生（中京大・国際教養）
- P-034 互いに異なる学習をした二つの個体群からなる魚群の行動
○川戸春磨・高木清二（未来大）
- P-035 メスの交尾器破壊と複数回交尾の利益
○中田兼介（京都女子大）・繁宮悠介（長崎総科大）
- P-036 クモの網に衝突するショウジョウバエの飛行経路
○繁宮悠介（長崎総科大）・西海望（基生研）・中田兼介（京都女子大）
- P-037 キシノウエトタテグモの振動を利用した捕食様式
○中村頌湧（佐賀大・農）・向井裕美（森林総研・森林昆虫）・徳田誠（佐賀大・農）
- P-038 寄主外を徘徊するイモゾウムシ個体率とその季節変動の推定
○本間淳・日室千尋・池川雄亮（琉球産経・沖縄病防セ・琉大農）
- P-039 オオツノコクヌストモドキにおける加齢による闘争時間の増加とその遺伝変異
○西谷俊輝・松村健太郎（岡山大院・環境生命）・Manmohan D Sharma・David J. Hosken（エクセター大・コーンウォール）・宮竹貴久（岡山大院・環境生命）
- P-040 ミツボシツチカメムシの雌親の給餌と随伴が幼虫の発育に及ぼす影響
○松岡宏樹（佐賀大院・農）・側垣共生（鹿大院連・農）・徳田誠（佐賀大・農）
- P-041 マベハサミムシの繁殖に他個体の存在が与える影響
鈴木誠治（北大院・農）
- P-042 ミツボシツチカメムシの生活史・繁殖形質と寄主植物の資源特性の関係
○側垣共生（鹿大院・連合農）・松岡宏樹（佐大院・農）・奥園元晴（佐賀大・農）・工藤慎一（鳴門教育大・院）・徳田誠（佐賀大・農）
- P-043 ショウジョウバエの一遺伝子行動多型において行動差はどれほどロバストか？
○桂優菜（千葉大・院・融）・高橋佑磨（千葉大・院・理）

- P-044 ブラジル産クマバチ 2 種における再訪花回避：花蜜分泌速度と競争の影響
○原野健一（玉川大・ミツバチ科学）・Michael Hrnir（UFERSA）
- P-045 オキナワチビアシナガバチにおける創設メス間の優劣関係：頭部の模様の影響
○須貝将士・濱本季秋（新潟大・教育）・土田浩治・岡本朋子（岐阜大・応用生物）・
小路晋作（新潟大・創生）・工藤起来（新潟大・教育）
- P-046 クロオオアリの概日リズムと社会的相互作用の関係
○大段拓己・粟津暁紀・西森拓（広大院・理・数理）
- P-047 社会性アブラムシにおける長寿の進化をもたらす要因
植松圭吾（総研大・先導研）
- P-048 条件依存的な多様性効果をもたらす個体間相互作用
○友田七菜（千葉大・院・融）・高橋佑磨（千葉大・院・理）
- P-049 血縁選択モデルにおけるコストパラメータの推定：種間比較によるアプローチ
○土畑重人（京大・院農）・大槻久（総研大・先導科学）・井戸川直人・大竹遼河（京
大・院農）・辻和希（琉球大・農）
- P-050 全てお見通し！世界最大規模の巨大シロアリ飼育装置で迫る卵保護行動の動態
○玉置千紘・松浦健二（京大院・農）
- P-051 日周活動の種内変異と幼虫と成虫で一貫しないパーソナリティ
○上野尚久（千葉大・院・融）・高橋佑磨（千葉大・院・理）
- P-052 なぜヤマトシリアゲは翅をクルクルまわすのか？
○石原凌（岡山大・院・環境）・宮竹貴久（岡山大・農）
- P-053 フタホシココロギ雌の多雄交尾は交尾失敗・環境変動に対する保険か？
○山本悠渡・安井行雄（香川大・農・昆虫）
- P-054 キムネカミキリモドキの個体群間変異：形態と行動に着目して
○吉川直志・松村瑶子（鳴門教育大・院）・立田晴記（琉球大・農）・小汐千春・工藤
慎一（鳴門教育大・院）
- P-055 リュウキュウクチキゴキブリの雌雄が行う翅の食い合い：いつも一定量残る翅の謎
○大崎遥花（九大・理・生態）・粕谷英一（九大・理・生物）

- P-056 Effects of mating on female immune defence in a fruit fly
○Keiko Oku (University of Exeter · UK) · Ben Longdon (University of Exeter · UK) · Tom AR Price (University of Liverpool · UK) · Nina Wedell (University of Exeter · UK)
- P-057 LMC の寄生バチにおける LRE の検討
安部淳 (明治学院大 · 教養)
- P-058 息子の将来とオヤジの背中：王の成熟度で決まるシロアリの羽アリ性比
○高田守 · 永井秀弥 · 稲垣辰哉 · 田崎英祐 · 松浦健二 (京大 · 農 · 昆虫生態)
- P-059 アリの採餌における行動と脳内物質の関係
○沖友祐 · 山中治 · 白石允梓 · 粟津暁紀 · 西森拓 (広大院 · 理 · 数理) · 青沼仁志 (北大 · 電子研)
- P-060 個性に注目した捕食—被食の相互作用
○松村健太郎 · 宮竹貴久 (岡山大院 · 環境生命)
- P-061 キムネクマバチ雄のなわばり飛翔時間帯と採蜜のタイミング
○佐々木謙 · 後藤健太 (玉川大 · 農) · 原野健一 (玉川大 · ミツバチ科学)
- P-062 都市に生息するマダラスズは捕食リスクと警戒性が低いか
○栗和田隆 · 冨田友樹 · 新留勢矢 (鹿児島大 · 教育 · 生物)
- P-063 クロオオアリのコロニーの活動頻度統計解析
○白石允梓 · 山中治 · 粟津暁紀 · 西森拓 (広大院 · 統合生命)
- P-064 沖縄島のアリにおける攻撃行動と採餌の関係性
○野中春日 (琉球大 · 風樹館) · 辻瑞樹 (琉球大 · 農 · 昆虫)
- P-065 ジュウシマツを用いた覚醒度依存の聴覚応答変化の解析
○飯塚崇文 · 森千紘 · 岡ノ谷一夫 (東大院 · 総合文化)
- P-066 ブンチョウ (*Lonchura oryzivora*) のトリル型地鳴きの速度と行動文脈
○古谷明梨 (東大 · 院 · 総合文化) · 森千紘 (東大 · 院 · 総合文化、学振) · 鹿野奈都音 · 岡ノ谷一夫 (東大 · 院 · 総合文化)
- P-067 ツル科におけるディスプレイと音声の相関進化
○武田浩平 · 沓掛展之 (総研大 · 先導研)

- P-068 コガラスの文法：鳴き声の組み合わせによる新たな意味の創出
鈴木俊貴（京大・白眉センター）
- P-069 ハシブトガラスの集団採餌における餌場変動に対する個体および集団の適応過程
○宮崎康輔（慶應大・心理）・須山巨基（慶應大・文）・茂田井あゆみ（慶應大・心理）・伊澤栄一（慶應大・文）
- P-070 日出日没付近におけるキングペンギンの採餌効率
○渡邊日向（総研大・複合科学・極域科学）・塩見こずえ（総研大、極地研）・佐藤克文（東大・大海研）・高橋晃周（総研大、極地研）・Yves Handrich（CNRS IPHC）・Charles A. Bost（CNRS CEBC）
- P-071 ハシブトガラス若鳥群れのオス間における接近状態の形成過程
○瀬口瑛子（慶應大・院、学振）・伊澤栄一（慶應大・文）
- P-072 ハシブトガラスの2個体間優劣関係形成時での劣位個体の心拍の性差検証
○高橋奈々・竹田和朗・伊澤栄一（慶應大・文・生物心理）
- P-073 年寄りの求愛は魅力的なのか？：ブンチョウの歌の縦断研究
○大塚賢（北大・生命科学院）・相馬雅代（北大・院理・生物）
- P-074 性淘汰によって進化するオスの貯食行動：モズの「はやにえ」による実証例
○西田有佑（大阪市大・院・理）・高木昌興（北海道大・院・理）
- P-075 鳥類における感覚バイアス仮説の検証：水玉模様を持つ種は水玉模様が好き？
○水野歩（北大院・生命科学院）・相馬雅代（北大院・理・生物）
- P-076 近縁種における麻酔の影響の種差：カエデチヨウ科鳥類を用いた研究
○池淵万季（理研・CBS・認知行動連携）・岡ノ谷一夫（東大・総合文化、理研）・Hans-Joachim Bischof（Bielefeld Univ.）
- P-077 移動・運動・生理の融合：育雛中の海鳥はどのような採餌戦略をとるのか？
○小山偲歩・水谷友一・依田憲（名古屋大・院・環境学）
- P-078 生態学的刺激に対するブンチョウの注意の測定
○鹿野奈都音・古谷明梨（東大院・総合文化）・橘亮輔（東大・進化認知科学研究センター）・岡ノ谷一夫（東大院・総合文化）

- P-079 南西諸島に新規個体群を確立したモズの臆病な個性
○濱尾章二（国立科博）・鳥飼久裕（奄美野鳥の会）・吉川翠（国立科博）・山本裕（日本野鳥の会）・伊地知告（喜界町）
- P-080 コロニー内における捕食と営巣場所の選好性でコロニー形成を明らかにする
○西條未来（総研大・先導研、NPO 法人リトルターン・プロジェクト）・北村亘（東京都市大・環境学部、NPO 法人リトルターン・プロジェクト）・沓掛展之（総研大・先導研）
- P-081 有毒なカンタリジンに誘引される節足動物：鳥類の糞を介した相互作用の発見
○矢崎英盛（首都大・生命）・橋本晃生（高崎経済大・地域政策）・佐藤臨（首都大・都市環境）・林文男（首都大・生命）
- P-082 ダンゴイカ類の発生過程における光環境が孵化後の行動表出に与える影響
○杉本親要・Jeffrey Jolly（OIST）・Gustavo Sanchez（広大院・統合生命）・Daniel Rokhsar（OIST）
- P-083 コウイカ類のボディパターンに含まれる言語的構造の解明に向けて
○藤原魁人（島根大・自然科学）・中井友理香・安室春彦・岡本光平・池田譲（琉球大・理・海洋自然）・岩本真裕子（島根大・総合理工）
- P-084 アオリイカの群れの情報伝播に発信者の数と受信者の位置が与える影響
○川端律貴・池田譲（琉球大・理・海洋自然）
- P-085 深層学習によるトラフコウイカのリアルタイム体色パターン認識
○岡本光平・池田譲（琉球大・理・海洋自然）
- P-086 対峙場面におけるコウイカ類の振る舞い：仕草と表情の可能性について
中井友理香・玉城佑哉（琉球大・理）・網田全・安室春彦（琉球大院・理工）・岡本光平（琉球大・理）・岩本真裕子（島根大院・総合理工）・○池田譲（琉球大・理・海洋自然）
- P-087 タコ類におけるクロスモーダルな知覚：見た目それとも触り心地？
○川島堇（琉球大院・理工・海洋環境）・池田譲（琉球大・理・海洋自然）
- P-088 アオリイカにおける脳の左右性の発現と攻撃・防衛行動との関係
○櫻井裕真・池田譲（琉球大・理・海洋自然）

- P-089 沖縄島沿岸におけるアオリイカの子草群落への産卵と資源動態
○木本翔・池田譲（琉球大・理・海洋自然）
- P-090 数十個にもおよぶ貯精嚢を持つスルメイカの子子貯蔵パターン
○佐藤成祥（東海大・海洋）・広橋教貴（島根大・生物資源）・小野廣記（島根大・生物資源）・岩田容子（東大・大海研）
- P-091 ヒバカリ（ナミヘビ科）は屈折で浅く見える獲物の位置を補正できるのか？
余田修助（京大院・理・動物）
- P-092 ニホンヤモリは採餌経験から光と餌を関連づけるか
○小林滉平・森哲（京大・理・動物行動）・堀田崇（京大・文・心理）
- P-093 繁殖投資のトレードオフ仮説：ヤモリ種内での検証
酒井理（京大・理・行動）
- P-094 ヘビの警告色がトカゲの逃走行動に及ぼす影響
○児島庸介・長谷川雅美（東邦大・理・生物）
- P-095 大型海藻の生育がエゾアワビの移動パターンに与える影響
○松本有記雄・高見秀輝（水産機構東北水研）
- P-096 エムラミノウミウシの配偶を拒否する行動
中野理枝（黒潮研）
- P-097 精包を使う配偶は何が有利なのか？
○山田優佳・東祐佳（日大・生物資源）・関澤彩眞（東北大・院農）・中嶋康裕（日大・経済）
- P-098 スナネズミの超音波コミュニケーション音声の発達と母子関係の変化
○鈴木悠加・玉井湧太・伊藤優樹・大浦クララ彩音・田中里沙・小林耕太・飛龍志津子（同志社大・生命医科・脳神経行動工学研）
- P-099 根室海峡に来遊するシャチの鳴き交わしにみられる規則性と変異
○中原史生（常磐大・総合政策）・山本友紀子（京大・野生動物研セ）・大泉宏（東海大・海洋）・三谷曜子（北大・フィールド科セ）・北夕紀（東海大・生物）・幅祥太（葛西臨海水）・斎野重夫（神戸動植環専）・吉岡基（三重大院・生物資源）

- P-100 音響的仮想物体の呈示によりキクガシラコウモリの接近物体の知覚方法を暴く
○吉田創志（同志社大・理工）・長谷一磨（名大院・環境・生態、学振、同志社大・生命医科）・小林耕太・飛龍志津子（同志社大・生命医科）
- P-101 ヒトの自然条件下での行動をウェブカメラで観察する：二人組のやり取り
森田理仁（東大・理・生物・進化人類）
- P-102 ハクジラ類のホイッスルはどのように進化してきたか？
森阪匡通（三重大院・生物資源・鯨研セ）
- P-103 ネコの排泄物に種や性の情報を付加する嗅覚シグナルの同定とその生合成機構
○三浦舞音・山下哲郎・宮崎雅雄（岩手大・農）
- P-104 音響テレメトリ計測で解き明かすコウモリの集団飛行時の混信回避行動
○長谷一磨（名大院・環境・生態、学振、同志社大・生命医科）・角屋志美（同志社大・生命医科）・竹内由紀（同志社大・生命医科）・小林耕太（同志社大・生命医科）・飛龍志津子（同志社大・生命医科）
- P-105 都市・郊外に生息するエゾリス個体群間の食性とボディコンディション比較
○高畑優（総研大）・内田健太（UCLA）・畠本樹（日獣大）・大河龍之介（北大）・白井厚太郎・田中健太郎（東大・大海研）・伊藤元裕（東洋大）
- P-106 採餌パッチ内におけるモモジロコウモリの最適採餌戦略の検討
○水口木綿花（同志社大院・生命医科学）・藤岡慧明（同志社大・研究開発推進機構）・福井大（東大院・農学生命科学研）・飛龍志津子（同志社大・生命医科）
- P-107 飼育チンパンジー（*Pan troglodytes*）における排尿タイミングの同期
○大西絵奈・ブルックスジェームズ（京大・理・野生動物研）・山本真也（京大・高等研）
- P-108 飼育シワハイルカ（*Steno bredanensis*）におけるラビングの分析
○永澤大輔（近大院・農）・小林希実・岡部晴菜・比嘉克・三谷祐太・徳武浩司（一般財団法人・沖縄美ら島財団）・酒井麻衣（近大・農）
- P-109 ラット群の個体間関係と向社会経験との相互作用
○博多屋汐美・勝野吏子・岡ノ谷一夫（東大・総合文化・広域科学）

- P-110 Sex differences of flipper rubbing in wild Indo-Pacific bottlenose dolphins
○Leanne Dixon・Mai Sakai (Kindai Univ.)・Kazunobu Kogi (Mikura Island Tourist Information Centre)
- P-111 ユビナガコウモリの自由行動中における下丘誘発活動電位に関する基礎的検討
○吉野寿紀・内池晃也・東亮浩 (同志社大院・生命医科学研)・長谷一磨 (名大院・環境学研)・小林耕太・飛龍志津子 (同志社大・生命医科学研)
- P-112 大脳新皮質体性感覚野と痒覚の因果関係
○三須宏武 (農工大・理研 CBS)・大石康弘・村山正宜 (理研 CBS)
- P-113 ユビナガコウモリにおける捕食者の体毛に対する忌避行動
○小林朋道・藤谷彰子・藪下史歩 (公立鳥取環境・環境・環境)
- P-114 野生ウマにおける集団の意思決定過程
○井上漱太 (京大・野生動物研セ)・Colin Torney (グラスゴー大・数理統計生態)・山本真也・リングホーファー萌奈美・Renata S. Mendonça (京大・高等研究院)・平田聡 (京大・野生動物研セ)
- P-115 データロガーを用いたヒキガエル属の行動パターン解析
原村隆司 (酪農学園大・農食環境)
- P-116 転向反応自動観察によるオカダンゴムシの異常拡散及び転向と移動時間の解析
○正角隆治 (明治大院・先端研)・森山徹 (信州大・繊維)・篠原修二・馬目信人・鈴木康太 (東大院・工学)・森岡一幸 (明治大・総合数理・ロボット)
- P-117 ハクセンシオマネキ雌の配偶者サンプリング：地表温と産卵までの日数の影響
竹下文雄 (北九州自歴博)
- P-118 スナガニ類の Waving の起源は、感覚トラップか？
○逸見泰久 (熊本大・水循環セ)・笠村啓司 (熊本大・工)
- P-119 カニはなぜ横歩きするのか：カニとエビの比較解析から適応的意義を探る
○高倉千紘・岡田二郎・河端雄毅 (長大院水・環)
- P-120 ワラジムシの交替性転向反応は性・抱卵・異性との遭遇で変化する
岡田琴音・○熊野了州 (帯畜大・昆虫生態)

P-121 捕食リスクに反応したテナガツノヤドカリの行動変化

○古賀庸憲（和歌山大・教育）・上村了美（大阪市大・工）・岩本侑真（和歌山大・教育）・石原千晶（北大・水産）・吉野健児（国水研）

P-122 探索と搾取のトレードオフを解消するミナミコメツキガニの群れ

○村上久（東大）・クラウディオフェリチャーニ（東大）・西山雄大（長岡技科大）